

一般会計

歳入総額 294億4,729万円

歳出総額 284億6,542万円

市の会計のうち、基礎的な経理を中心とした会計です。

令和3年度の予算は主に次のように使われました。主なもののため、合計は一致しません。(万円未満四捨五入)

令和3年度決算を認定

市長は、翌年度予算を決める3月の定例会までに、前年度の決算について議会の認定を受けなければなりません。

9月15日、16日の2日間にわたり開催された予算決算委員会において決算内容を審査し、本会議最終日に全ての決算を認定しました。

特別会計・企業会計

一般会計と分けて経理する必要があるため、事業別に分けられた会計です。

※万円未満四捨五入

		歳入総額(A)	歳出総額(B)	差引額(A)-(B)	
特別会計	国民健康保険	76億4,762万円	75億4,830万円	9,932万円	
	後期高齢者医療	8億3,004万円	8億2,749万円	254万円	
企業会計	水道事業	収益的収支	12億6,433万円	11億8,231万円	8,203万円
		資本的収支	2億8,457万円	5億7,209万円	▲2億8,752万円
	下水道事業	収益的収支	26億9,352万円	25億8,841万円	1億 511万円
		資本的収支	7億5,650万円	13億2,632万円	▲5億6,982万円

水道および下水道事業会計(資本的収支)の不足分は、損益勘定留保資金などで補填されました。

財政指数等

経常収支比率が悪化しているが、本市の財政は健全性を保っているかと捉えていいか。

経常収支比率の上昇は、単年度限りの特殊要因であること、財政健全化判断比率などの財政指数は健全な水準を保っていること、基金残高も十分な規模を確保していることから、総合的に判断して健全性を保っていると認識している。

交通安全啓発事業

問 自転車用ヘルメット購入補助実績が予算の30%ほどだが、理由は。

答 本市では、自転車に関係する事故発生件数がここ3年減少傾向にあること、自動車の保有台数が県平均より多いことから、特に65歳以上で、自転車に乗る方が少ないためと考えられる。



総務費
26億8,910万円

児童発達支援センター運営事業

問 児童発達支援センター(あおぞら園)が開設されて1年が経過したが、その成果は。

答 利用している子どもは、遊びの経験や周囲への関心が広がり、食事などの基本的な生活習慣が少しずつ身に付いている。さらには、支援センターと保育園等を併用で通園できるようになった子、保育園等に移行した子がいる。

問 運営から見えた課題は。

答 発達支援教室とは異なり、受給者証が必要となる障害児の福祉サービスであるため、利用を迷う保護者もいた。このような方にも、子どもの発達に必要なサービスであると理解していただき、利用につながるよう努めていく必要がある。



民生費
99億1,042万円